岩手大学震災復興推進レター

「岩手の復興と再生に」オール岩大パワーを

vol.11

発行者
国立大学法人
岩手大学
総務企画部総務広報課
〒020-8550
岩手県盛岡市上田3-18-8
TEL 019-621-6015
FAX 019-621-6014
E-mail kkoho@iwate-u.ac.jp

平成24年11月30日発行

http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml　岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

第7回マニフェスト大賞にて最優秀賞を受賞しました

平成24年11月2日、東京・六本木で行われた第7回マニフェスト大賞（マニフェスト大賞実行委員会主催、毎日新聞社・早稲田大学マニフェスト研究所共催、共同通信社後援）の授賞式において各賞の最優秀賞の発表があり、岩手大学は震災復興支援・防災対策賞の最優秀賞を受賞しました。

各賞の最優秀賞は、授賞式に先立って10月1日に発表された優秀賞受賞者・団体の中から選ばれるもので、震災復興支援・防災対策賞については岩手大学を含む5団体の優秀賞受賞が発表されていました。

授賞式では、優秀賞受賞の各団体に対する表彰が行われた後に最優秀賞の発表があり、藤井克己岩手大学長と岩手大学学生ボランティア団体「天気輪の柱」の萩原亜弥香代表（工学研究科博士前期課程2年）が、審査委員の杉尾秀哉氏（TBSテレビ解説専門記者室長）から賞状とトロフィーを授与されました。杉尾氏からは「教育研究機関の特徴を活かし、外部機関とも連携した広範な活動はまさに特筆すべきもので、今年の受賞にふさわしい」との講評があり、藤井学長は「岩手大学はこの一年半の間、教職員・学生が一体となって復興の取り組みを進めてきた。今回の受賞を励みとして、より一層の取り組みを行っていきたい」と受賞の言葉を述べました。

授賞式の様子（左から、杉尾委員、学生代表の萩原さん、藤井学長）

不来方祭にて、震災復興支援の展示・フォーラム等が行われました

平成24年10月20日と21日の2日間、岩手大学構内にて大学祭（不来方祭）が行われ、震災復興支援に携わっている教員・学生らによる取り組み内容のパネル展示やフォーラム等が行われました。

20日は農学部1号館において、農地復興支援や地域コミュニティ再建支援の取り組みの内容を紹介するパネル展示が行われたほか、陸前高田市竹駒町の調査圃場で栽培されたクッキングトマトを使った料理の試食会が行われ、多くの来場者から好評を得ていました。また、図書館1階では三陸復興推進機構の各部門の活動を紹介するパネル展示や、各種資料の配布などが行われました。

クッキングトマト料理の試食会を行った松嶋卯月農学部准教授（左端）と学生

21日は、地域防災研究センターが第2回目となる地域防災フォーラムを開催し、ケンタッキー大学（米国）のParadyumna P. Karan教授を講師に迎え、「海外から見た東日本大震災～インド洋大津波との比較をもとに～」と題した講演が行われました。Karan教授は、世界最先端の護岸工事が施された三陸沿岸でも、東日本大震災の津波被害を免れられなかったことに触れ、「最高の技術を駆使しても自然災害の対処には限界があることから、防災においては、一人ひとりの日頃の備えが最終的に重要となる」と、防災教育の重要性を説きました。

地域防災フォーラムの様子

そのほか、総合教育研究棟（教育系）では、麦倉哲教育学部教授主催の大槌町の方々との交流イベントが開催されました（大槌町の方々との交流イベントの詳細については、本紙裏面「岩手大学三陸復興プロジェクト」の記事をご覧ください）。

公開講演会「震災と歴史学」を開催しました

岩手大学三陸復興推進機構は、平成24年10月6日、岩手大学北桐ホールにて公開講演会「震災と歴史学」を開催しました。

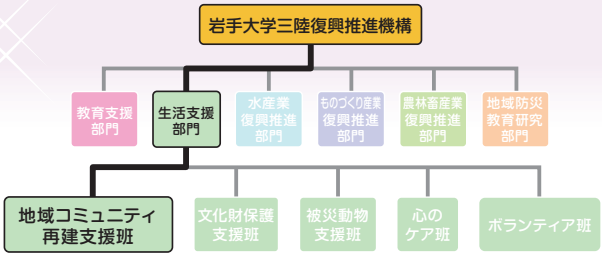
この講演会は、同機構生活支援部門の文化財保護支援班と東北史学会及び岩手史学会によって企画されたもので、当日は、歴史教育者や研究家、一般市民の方など120名が会場を訪れました。

講演会では、保立道久東京大学教授による講演「平安時代における奥州の規定性―九世紀陸奥海溝地震を切り口に―」と、大門正克横浜国立大学教授による講演「「生存」を問い直す歴史学―震災後の現在と岩手県の戦後史との往還を通じて―」が行われました。東日本大震災と過去の災害などを関連させて岩手県や東北地方の歴史を浮かび上がらせるという今回の講演に、会場を訪れた多くの参加者が関心を示していました。

岩手大学では、被災地での現地調査や今回のような講演会などを通じて、被災した文化財の保護支援活動を続けていきます。

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、10月に開催された大学祭にあわせ、津波被災地の人々を対象に復興支援ツアーを実施した地域コミュニティ再建支援班の取り組みの一例をご紹介します。



岩手大学大学祭（不来方祭）バスツアーを開催しました。

岩手大学三陸復興推進機構　生活支援部門　地域コミュニティ再建支援班
麦倉　哲（教育学部　教授）

大槌町の方々を岩手大学大学祭（不来方祭）にお招きする復興支援ツアーを開催しました。参加者の皆さまには、大学祭をご覧いただくとともに、特設の懇談スペース「大槌の部屋」でくつろいでご懇談いただきながら、調査報告会やコンサートにご参加いただきました。

私たち教育学部社会学研究室は、昨年来、学内外の教員や学生の応援も得て、避難所代表者調査や仮設住宅住民調査などを実施し、大槌町の多くの皆さまから貴重なお話をうかがいながら、交流を少しずつ進めてきました。今回のイベントは、研究成果を今後の住民主体のまちづくりに生かしていくために、調査報告会や懇談会を開いて、地域と大学とが連携していこうという趣旨で実施しました。

昨年の調査報告会は大槌町内で実施しました。しかし今年の報告会は、いっそのこと盛岡に来ていただき、大学祭も参観していただき、それと同時に、内陸への避難者の方々とも交流していただこう、さらには大槌町出身で、被災後歌手となった中学生・臼澤みさきさんのコンサートも聴いていただこうと、盛りだくさんの企画を立てました。

バスツアーの参加者は約40名。一行の中には、中学生が4人含まれていました。初めてのツアーなので、麦倉と教育学部生物学の梶原昌五准教授が添乗したり別車両で随行したりして、安全に万全を期しました。21日の早朝7時に大槌町を出発した一行は、予定より少し遅れて11時くらいに岩手大学に到着し、各種プログラムに参加され、最後に、郷土の一番星のような存在である臼澤みさきさんのコンサートを楽しんで、午後4時に帰路につきました。

このイベントを通じて、岩手大学と大槌町の距離は少し縮まったのではないでしょうか。防災の研究会では、自分自身の体験を交えながら発言してくださる方が目立ちました。懇談では、内陸避難の方との交流が芽生え、超満員のコンサートでは、歌手と会場との一体感がうかがわれました。被災時に小学生だったみさきさんが、自身初のバンド編成により、「故郷」「みさき節」などアンコールも含めて9曲を熱唱しました。なお、今回はプロダクション（クレドプロモーション）やレコード会社（テイチクエンタテインメント）のご協力により、復興支援の無料コンサートとなりました。また、このイベントの一環として、被災後の郷土・大槌を撮り続けている伊藤陽子さんの写真展も開催しました。

大槌の部屋の様子

私たちは、被災から復興までの道のりを5年以上かけて、住民に寄り添いながら、調査や交流を介して、コミュニティの再生や地域社会の持続性に貢献していきたいと考えています。今回のバスツアーは終了しましたが、目指す目標はまだまだ先にあります。その先に希望が見いだせるように、微力ながら、力を尽くしたいです。

最後に、岩手県大槌町、大槌町仮設住宅自治会役員・支援員の皆さま、復興支援物販出展者の皆さま、三井物産株式会社様、大槌臨学舎、盛岡市復興支援センター、SAVE　IWATE、遠野まごころねっと関係者の皆さま、PRしてくださった店舗の皆さま、マスコミ関係者様ありがとうございました。

宮古エクステンションセンターだより

10月1日に開所いたしました宮古エクステンションセンターです。

あっという間に一か月が過ぎ、きれいな紅葉もいつの間にか落葉の季節になりました。

宮古エクステンションセンターは、宮古市の産業支援センター内に場所をお借りして仕事をしています。

宮古市産業支援センターの様子

宮古市産業支援センターは、宮古市分庁舎内2Fにあり、総勢15名の組織で、地域産業の総合支援センターとして、産業復興、食産業支援、工業振興、企業誘致、港湾振興、雇用・労働対策に取り組んでいます。

宮古エクステンションセンターは、産業支援センター職員やコーディネーターと情報を共有、交換しながら企業、団体訪問を行い、ニーズ収集に努めています。震災後一年半を経過しておりますが、様々な課題や困りごとなどはまだまだたくさんあります。岩手大学の力を少しでも復興のお役にたてられるよう活動していきます。

●生徒達に笑顔を

宮古市内には、津波に被災した学校がいくつかあります。

岩手県立宮古工業高等学校もその一つです。

宮古工業高等学校は畑や田んぼに囲まれた穏やかな風景の中にありました。しかしながら、被災後、農地は荒れ果て荒涼とした風景になっています。校舎や校内敷地はほぼ復旧し、今までと同じように授業やクラブ活動を行っていますが、一度見るだけでもつらい気持ちになるこの風景の中を、生徒たちは毎日通学しています。

被災後の学校周辺

現在、耕作していない農地を利用し、農林畜産業復興推進部門の教員の指導の下、植物を育て、景観の改善を行い、少しでも生徒たちの安らぎを得られないだろうか。そのような活動に取り組もうとしています。

一日でも早く笑顔で通学ができるような風景に戻ればいいですね。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先　宮古エクステンションセンター
〒027-8501 岩手県宮古市産業振興部宮古市産業支援センター内
TEL:090−2886−8887　E-mail:miyako@iwate-u.ac.jp

Information

図書館に「自然災害関連資料コーナー」オープン！

10月1日、岩手大学情報メディアセンター図書館2階閲覧室内に、「自然災害関連資料コーナー」がオープンしました。

「自然災害関連資料コーナー」は、東日本大震災に関連した図書・雑誌に加え、図書館が以前から所蔵していた自然災害関連図書と合わせて、シンポジウムのチラシやプログラム、パンフレット等、従来は図書館資料として扱ってこなかった資料類の公開も行っています。所蔵点数は図書・雑誌類が約680点、その他の資料が約280点です。

情報メディアセンター図書館では、これからも東日本大震災をはじめとする自然災害に関する資料を積極的に収集していきます。該当する資料をお持ちの際は、是非ご提供くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ　情報メディア課　図書館資料管理グループ　TEL:019-621-6084

第2回高度ものづくり人材養成講座 in 釜石 ―ビジネスプランニングプログラム―

岩手大学三陸復興推進機構では、岩手大学工学部教員と日本技術士会経営工学部会の方々を講師に、釜石地域におけるものづくり人材の養成講座を開催します。

開催日：2012年12月21日（金）・22日（土）
会　場：釜石市教育センター5階（釜石市鈴子町15-2）
参加費：無料
主　催：岩手大学三陸復興推進機構
協　力：財団法人釜石・大槌地域産業育成センター、岩手県技術士会、公益財団法人日本技術士会

内容やお申し込み方法など、詳細は釜石サテライトホームページ
http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/をご覧ください。

お問い合わせ　岩手大学釜石サテライト（釜石市教育センター5階）
TEL 0193-22-4420

編集後記

11月15日、北風が吹くなか岩手大学では防災訓練が実施されました。震度6強の地震が発生したという設定のもと、まさに震災発生さながらの緊張感のなかで訓練が行われました。岩手大学の野球グラウンドは災害発生時の避難場所に指定されています。再び震災が発生した時に地域の方々のお役に立てるよう、日頃からの訓練を大切にしようと思った1日でした。